

議 事 録

1. 開会

2. あいさつ

3. 委員紹介

4. 座長指名

5. 議事

(1) 説明事項

①本宮市の人口動態について資料1

(委員)

- ・県内自治体との社会動態数は増加しているとのことだが、子育て世帯が他市町村から転入してきているということか。

《事務局》

- ・市内ではアパートの建設が増加しており、単身世帯の転入が増えてきている印象。

(委員)

- ・単身世帯が増えてきているということは、市内事業所への就業人数も増えているということか。

《事務局》

- ・ご認識の通り。子育て世代も増えているので、子育て世帯への政策・就業支援の政策が功を奏しているものと思われる。

(委員)

- ・外国人の実習生も増えているように感じるが、人口動態に人数はふくまれているか。

《事務局》

- ・ご認識の通り

(委員)

- ・外国人住民サポート事業についてポータルサイトの閲覧数を教えてください。

《事務局》

- ・把握していなかったもので、再度確認させていただく。

(委員)

- ・他自治体と比べて本宮市は外国人の割合は多いのか。外国人に対する政策をやっているということは、やっていない自治体もある中で、割合は多いのかと思った。

《事務局》

- ・本宮市内は製造業が多いので、他の自治体に比べて外国人住民は人口割合に対しては多い。市は国際交流課を設置し、外国人住民に対する事業に力を入れている。

②地方創生関連交付金事業について資料2

(委員)

- ・観光案内・宣伝事業の中で放映された番組の内容を教えてください。

《事務局》

- ・お笑い芸人の友近が、水谷八重子のキャラクターに扮し、駅を基点に伊藤久雄のゆかりの地を巡りながら市の魅力をPRし、番組最後では駅のピアノを伴奏で伊藤久雄の歌を披露するという内容であった。

(委員)

- ・観光案内の部分で、農業の部分観光案内する予定はあるか。

《事務局》

- ・和暮和暮オープン後予約が埋まっている状況。滞在中は、農業体験もできるのでPRにつなげたい。全国まゆみちゃん交流プロジェクトの中でも田植え体験を通じてPRを行っている。

(委員)

- ・創業支援塾は、本宮市主催で行われているのか。

《事務局》

- ・創業支援塾は、金融機関・商工会で開催していただいている。市独自ではない。

(委員)

- ・昨年補助金を活用した起業に携わった際に、補助金の交付だけでなく申請書の作成のアドバイス等がありがたかったという声があった。
- ・空き家バンクについての進捗状況は。

《事務局》

- ・空き家バンクについては、年に数回説明会を開催し、相談も承っている。活用の実際の件数までは把握していない。今年度から空き家計画を策定しているので、空き家の活用の推進に力を入れていく。

(委員)

- ・空き家バンク事業については全国的に事業を行っているが、事業を行う人によって効果が異なる。

(委員)

- ・農村部で農業ができなくなってしまった空き家について、農家民宿を開くことができるのか、補助事業を使うことができるか、検討していただきたい。
- ・簡易宿泊業という資格を取るための費用等のサポートいただければ、空いた場所に定住しようという方を受け入れる器が増えるかと思う。

(委員)

- ・農村にある空き家に、農家民宿をやりたい方にノウハウを教えるということか。

(委員)

- ・まずは本宮市に興味がある人や、農業をやってみたい、どんな場所か体験してみたいという方に農家民宿が入り口になればいいと思う。
- ・小規模でも、事業として農家民宿が行えるようになるとよい。

《事務局》

- ・補助金は、新規創業者対象のため現在事業を行っている方については対象にならない。新規創業者であれば、業種は絞っていない。旅館業も対象になると思われる。
- ・旅館業法上の課題も踏まえつつ、新規創業を予定されている方であれば活用していただきたい。
- ・和暮和暮についても、実際に移住を検討されている方や、交流に使用していただきたい。

(委員)

- ・創業受講者数の中で、実際創業された方の人数は。

《事務局》

- ・令和4年は2件、令和5年も2件、計4名の方が、創業支援塾を受講していただいたうえで補助金の申請を行ってもらっている。

(委員)

- ・空き店舗の補助について、家賃も改修費も補助になるのか。

《事務局》

- ・家賃は初月に対して補助金が出る。基本的には改修費に使われている。

(委員)

- ・観光案内について、テレビ番組は放送時見逃してしまうと後で見ることができなくなってしまうので、何度も継続してみられるような仕組みにしたらどうか。

《事務局》

- ・テレビ番組の作成については、テレビ局から格安で番組が製作できるという話があり今回の番組作成に至った。ご認識の通り、テレビは短期的な効果である。デジタルパンフレットやYouTubeの動画も令和3年度に作成したので、組み合わせながらPRしていきたい。ご意見いただいたことを担当課へ共有する。

(委員)

- ・外国人住民生活サポート事業について、日本語教室にかかわる中で、20年前は奥さんとして本宮市に移住する外国人の方が多かったが、今は実習生が増えたように思われる。ハンディタイプの生活ガイドブックは、自分の国の言語で分かるという意味がある政策になると思う。
- ・市の防災訓練の際に企業に声をかけて巻き込んでいくみたいな政策もぜひお願いしたい。企業がベトナムの方を日本の成人式に連れて行って日本の文化を見てもらう取り組みをしていた。実習生、個人に声をかけるのではなく企業からアプローチしたほうが効果的なのではないかと思われる。

《事務局》

- ・ご意見いただいたことを担当課へ伝える。

③もとみや結婚サポート事業について資料3～資料5

(委員)

- ・今回、結婚新生活支援補助金を利用した。妻が山口県の下関にいて新生活を始める際にチラシを見て、下関から引っ越すときの費用になればと思い、市の担当へ相談し活用した。実際に申請書を提出してから、1週間程度で入金があった。妻の友人からは、福島県のみのお組なのかと聞かれた。全国的に補助金の政策は行われているが、周知されていないのかもしれない。インターネット等、市の発信の仕方が良かったと思う。
- ・要件の中の500万円未満というのが、所得なのか収入なのか、その意味もわかりづらいので、ネット等で情報を発信する際にはわかりやすくしたほうが良いと考える。
本宮で結婚する場所というよりは、本宮で新生活を送りやすい場所というイメージを定着してもらうことで、郡山でも結婚はできたが、本宮だと郡山・福島のどちらでも働けるので選んだということもあるかもしれない。
発信の仕方はよいと思うので中身の部分をわかりやすくお願いしたい。

《事務局》

- ・所得の関係は、会社員、自営業の方それぞれにパターンはあるが、申請実績から代表的な例は把握できるため、ご意見を参考にさせていただきたい。代表例に当てはまらない申請者に対しては今まで通り職員が丁寧な説明を続けていきたい。
補助金のチラシは、本宮市内外の不動産業者にも配布している。アパートを探している方に本宮市を知ってもらう取り組みも行っているので、継続して行っていきたい。

(委員)

- ・例えばふるさと納税のホームページ内で、移住定住の広告を掲載するのもよいと思う。元々本宮市に興味がある人や、若い人が節税対策のためにふるさと納税をする際に、移住定住の効果的なPRになるかと思われる。

《事務局》

- ・移住定住だけでなく、観光を含めて連携しながら事業を進めていきたい。

(委員)

- ・今日の会議で説明のあった事業の中に、現在本宮市に住む人を大切にしようという政策がない。今、本宮市に住み働く人を大事にできていない市は、新しい人が来ていなくなってしまうのではないかと思っている。今日そのような政策がないというのは悲しかった。
- ・市内で、事業を行う中で、災害が起きた時に業務を継続するためにあらかじめ計画を立てるよう厚生労働省から求められている。災害が起きた際に事業所の利用者やその家族にどのような事前準備ができるか、そして従業員をどのようにして守れるのかを調べた。調べた中で、社労士会の災害協定というのを見つけた。社労士会と市町村で結ぶ協定だが、本宮市と須賀川市が協定を結んでいないことが分かった。住みよさランキング1位なのにと感じてしまう。今いる人を大事にしつつ、新しい人を受け入れていけるような市になればと思う。

《事務局》

- ・社労士会との防災協定に関しましては、担当課へ共有させていただく。
- ・住みよさを高めていくというのが1番だと考えているので、市民に対しての政策は引き続き力を入れて進めたい。

- ・今回の有識者会議については、交付金を活用した制度の話がメインとなるのでご理解いただきたい。

6. その他
なし。

7. 閉会

以 上